

# Democratising design approach for public engagement and spatial justice

民主的かつサステナブルな地域社会を目指すためのデザインアプローチの創出

**照井 亮 (Ryo Terui - KDDI Research, Inc.)**

Narrative Environments - Identity, In, and Through, the Built Environment  
Central Saint Martins, University of the Arts London



Please email me, then possibly I can provide you some materials  
[ryo.terui@gmail.com](mailto:ryo.terui@gmail.com)

# はじめに



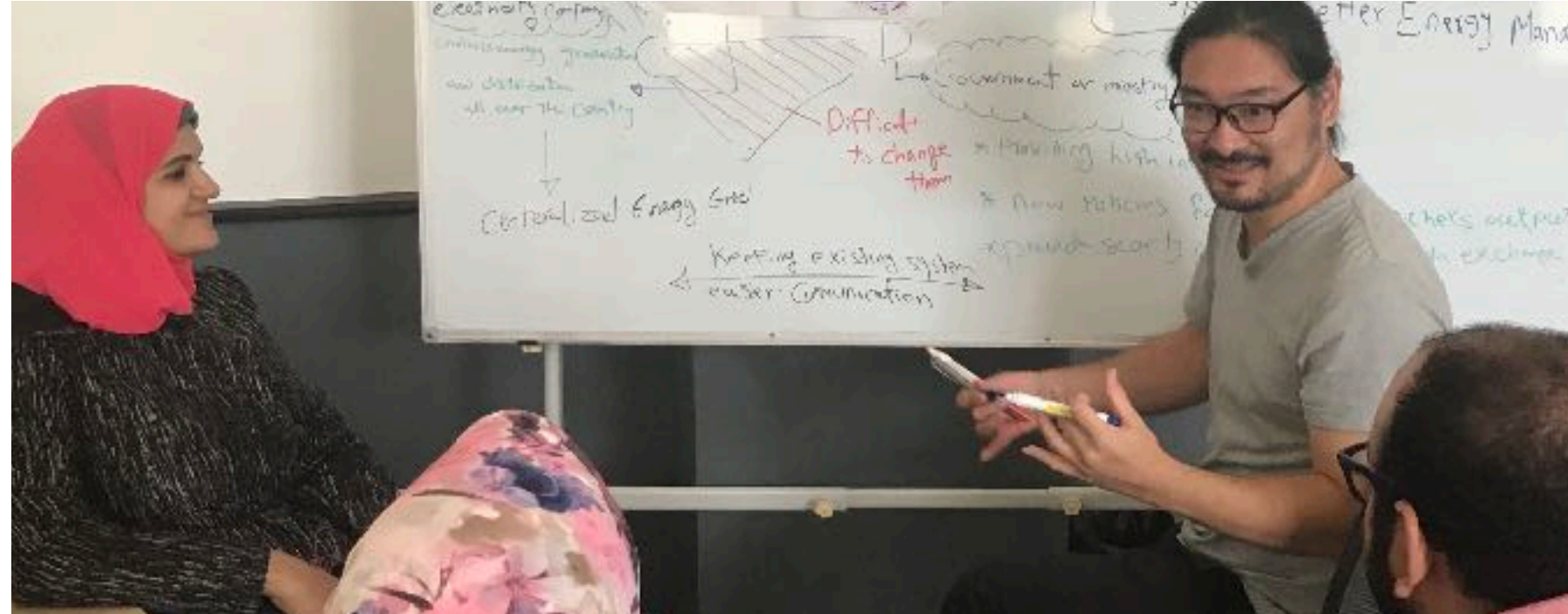
ロンドンオリンピックへ向けての大規模開発の際に、ロンドンの東側の貧しい地域が用地として回収され、そこに暮らす人々が追い出されました。そして何十キロにもわたる工事用フェンスで約6年間閉ざされた都市開発を目の当たりにしたことです。華々しく行われたロンドンオリンピックの傍らで、多くの地元の人々の暮らしが犠牲となりました。

本来、都市開発とはその土地に暮らす人々の歴史や文化を尊重し、彼らの意見を取り入れながら行われるべきだと考えます。

そこで、開発を進める側と住民たちとの対話に着目し、開発者と住民が共に街の現在と未来を俯瞰し、両者をつなぐデザインの役割の創出に取り組んでおります。



# Who I am?



現在、私はKDDI総合研究所及びセントラル・セント・マーチンズの博士課程に在籍しており、空間的正義と社会的関与のための民主的デザイン・アプローチに関する研究を行なっています。デザインをめぐる社会的力学、特に「与える側」と「消費する側」の間にある現在の資本主義的システムの再構築に新たな洞察を与えることができるのではないかと期待しています。

## What I have done in the last decade

**2010 - 2011:** Lecturer at Japan Women's University - Tokyo

**2010 - 2011:** Mentor at Professor Sunaga Lab at Tama Art University - Tokyo

**2012 - 2014:** Communications Assistant for Patricia Austin, Central Saint Martins College of Art and Design - London

**2015 - 2019:** Part-time lecturer at Musashino Art University

**2015 - Current:** Part-time lecturer at Tokyo Institute of Technology

**2017:** Academic Liaison for Central Saint Martins at University of the Arts London

**2017 - Current:** Specially appointed professor at Egypt Japan University of Science Technology

**2021 - Current:** International coach at Bloomberg Philanthropies/Futuregov

## Awards and other activities

**2014:** Unknown Quantities: MACD & MACCC, CSM Collaboration 2014 寄稿

**2017:** 基礎デザイン学会 情報誌 特集

**2018:** 日本デザイン学会 グッドプレゼンテーション賞

そもそも、デザインとは何か？

## 従来のデザイン：

専門的職業としてのデザイン  
車、衣類品、ポスター、看板

作り手が消費者に「与える」イメージ



How to draw a car - designing the Lexus LF-SA

## これからのデザイン：

人々が現状を改善するための行為と結果は  
全てデザインである-  
毎日の暮らしはデザインの連続である

地元の人々と共に学び、共に創るイメージ



<https://medium.com/the-mission/6-important-questions-to-ask-yourself-often-to-improve-the-quality-of-your-life-3c4d7ed4cb10>

小平らしいまちの個性と発展とは？

鍵は小平市の住民の皆様が「主役である」ということを認識すること。



<https://icma.org/articles/pm-magazine/extent-public-participation>



<https://www.hakijamii.com/index.php/2018/04/17/public-participation-alert/>

# Art and Design + Philosophy + Anthropology + Geography

デザイナーに社会的責任/エシカル/政治的な責任はあるのか？

This presentation focuses on one public engagement project in Oshamambe, Hokkaido in Japan since Autumn 2019.

In total, approx 40 participants involved this investigation, they are eight local high school students, 10 local residents, 12 local business people, five from the local government and five developers.

Photo by Nobuhisa Ata, 11th October 2020

*Consideration of the isolated object is only a first step for thought; the fundamental operation of philosophy has always been the reconstruction of the whole.*

課題を見つけ出し、それについて思考することは”最初の入り口”であり、最も重要な哲学のオペレーションは、“全体”の再構成である。

Henri Lefebvre, 2009. Dialectical Materialism

# Qualitative and Quantitative researches

## 照井の研究における定性/定量調査とは

### Qualitative (定性調査-従来のアンケートやインタビューでは拾い上げることができないデータ)

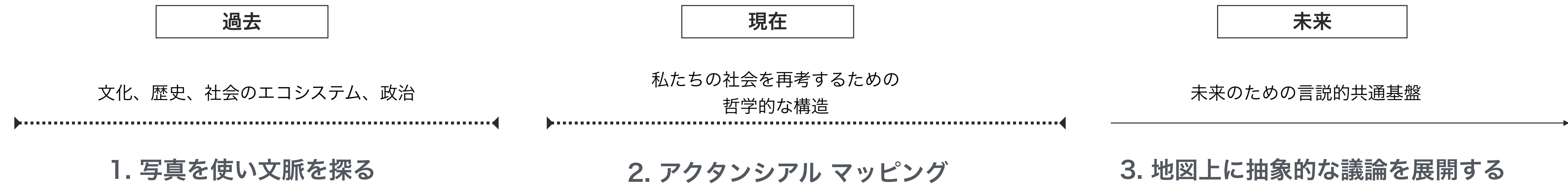
研究者」と「被研究者」の関係を超えて、参加者のオーセンティックな語りを引き出すためのビジュアルエスノグラフィーのフォトエリシテーション手法。

### Quantitative (定量調査-都合の良さのために真実を犠牲にしないために)

私の研究では、参加者の多様性や平等な参加の度合いが、定量的な調査で測定できる第一の優先事項です。したがって、定量的とは、年齢層、社会的地位、性別、人種など、さまざまな範囲の関係者の比率や数を意味します。例えば、最近行われた長万部でのワークショップでは、地元の高校生、地元住民、地元企業・業界人、地方自治体の役員、開発者などが参加しました。

# The combination of three methodologies enables:

照井の研究は下記の3つの方法論を骨格としています。



現在の経済活動において、産業界と消費者/サービスを受ける側の人々との関係性を再構築し、新しい価値を創造することを目的とします。

1. 人々の暮らしの中にある価値（文化、歴史的背景、社会的背景/ローカルエコシステム）を写真を用いた手法で再認識/共有します。
2. 構造主義的手法（Actantiality）によって市民の中にある価値の存続と繁栄に関わるステークホルダー（Actants = 市民+行政+産業+教育期間+移住者及び旅行者）がそれぞれの立場と役割を構造化し、理解することで、人々を結びつけ、未来を考える共通の土台（common ground）を作り出します。
3. アート+デザインの視覚言語方法論により、共創に向けた相互コミュニケーションを促進し、長期的視点としての未来のビジョンを共有することを最終的な目標とします。

# 1: 写真を使い地域のアイデンティティを再構成する - photo-elicitation



このプロセスは、参加者のモチベーションを高め、教育を行い、自らの社会参加に責任を持てるようにするものです。このプロセスでは、参加者となる人々にカメラを渡し、彼らが自分自身の世界を撮影することを奨励し、その写真を撮影した参加者と議論します。このプロセスでは、参加者は "先生" になり、研究者は "生徒" になる。

Reflection from the previous workshop, from high school students

## 北海道の事例-高校生チーム



### いいところ

花や植物

家族 - 家族ぐるみの付き合いがある

静狩 - 鳴砂がある

### イマイチなところ

海 - 放射性廃棄物

人 - 人と人の触れ合いが少ない

町 - 人が少ない

景色 - 映えない、若者がいない

花火 - 見やすいところがない

祭り - 出店が少ない

静狩 - くる手段がない、お店がない

Reflection from the previous workshop, from the local residents

# 北海道の事例-地元の人々



## いいところ

- 毛ガニ祭り
- 雪中キャンプができる
- サーフィンができる
- インバウンドツアー
- 海、山、川、自然が豊か
- 温泉
- 観光 - (長万部の) 知名度が高い
- 公共交通のアクセスが良い/悪い(外部)

- 女性が元気
- おしゃおこプロジェクト
- キッズダンス
- フラサークル

## イマイチなところ

- 毛蟹がとれなくなっている
- 雪中キャンプの知名度が低い
- サーファーと漁業者との問題
- 自然が豊かだが、なんか中途半端
- 特徴がない、知名度はゼロ

Reflection from the previous workshop, from the local business people

## 北海道の事例-地元で商店を営む人



### いいところ

イベントが多い

年に一度の例大祭

地域活動が多い

いろいろな世代の交流がある

ホテルがある

四季が感じられる

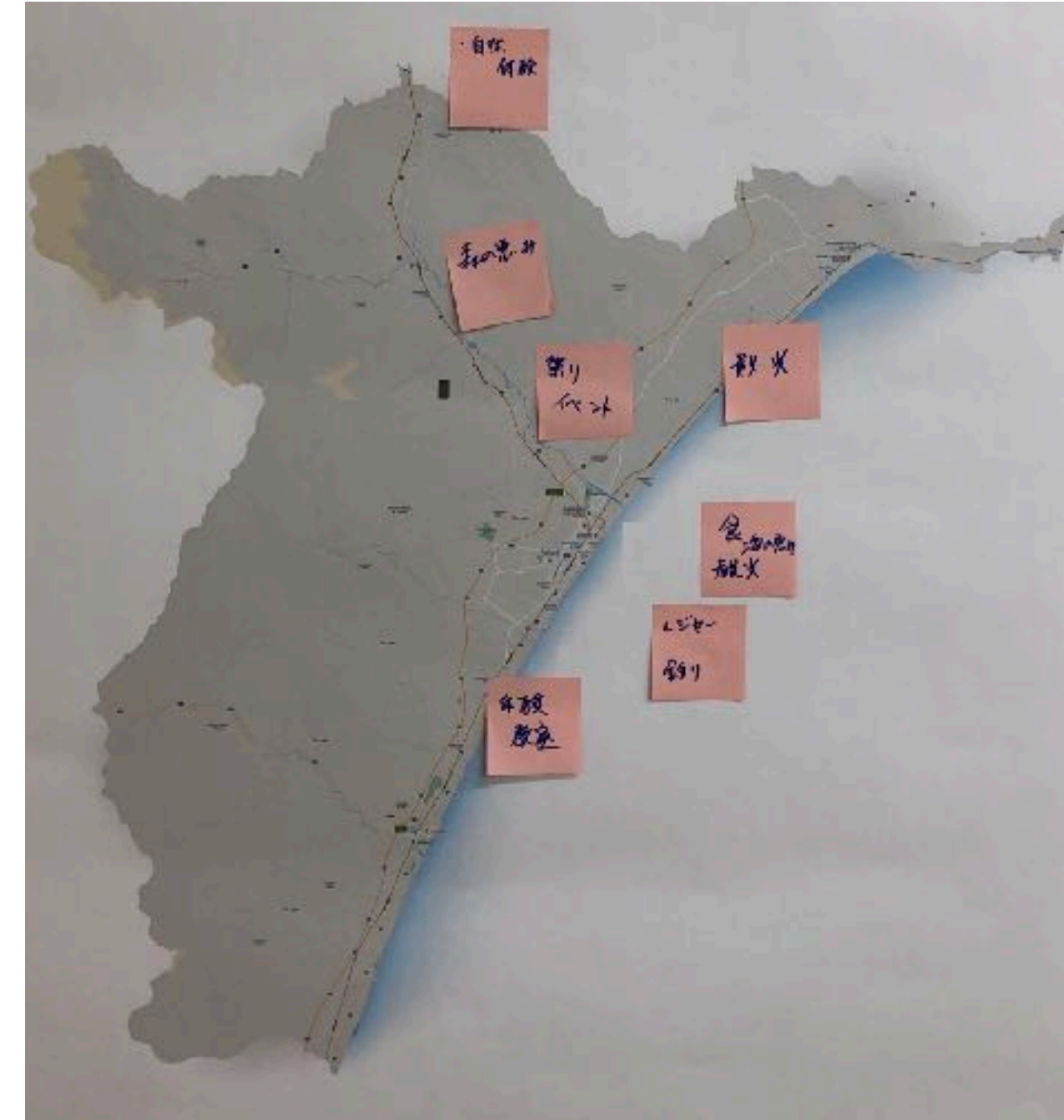
動物が沢山いる

山菜が豊か

地域の伝統や知恵が受け継がれている

子供が安全に自然と触れ合える場がある

アイヌ文化の伝承



### イマイチなところ

巻きの町と言われる、仲間外れがち

大型店がない

時々動物に作物を荒らされる

若い世代が少ない

大人の体験・趣味がない

開拓の歴史が伝わってこない

限界町内会？

Reflection from the previous workshop, from the local government and developer team

## 北海道の事例-役場とドーコンの皆さま



甘太郎 - カツカレー  
DELI57 - カツカレー  
アリス - ハンバーグカレー  
かなや - かにめし、カニカレー  
長万部温泉 - びっくりご飯  
こだわり - エビカツカレー

鉄道村  
みこし  
自然

# 写真からの様々な事象を読み解く 物語の集合体としての都市

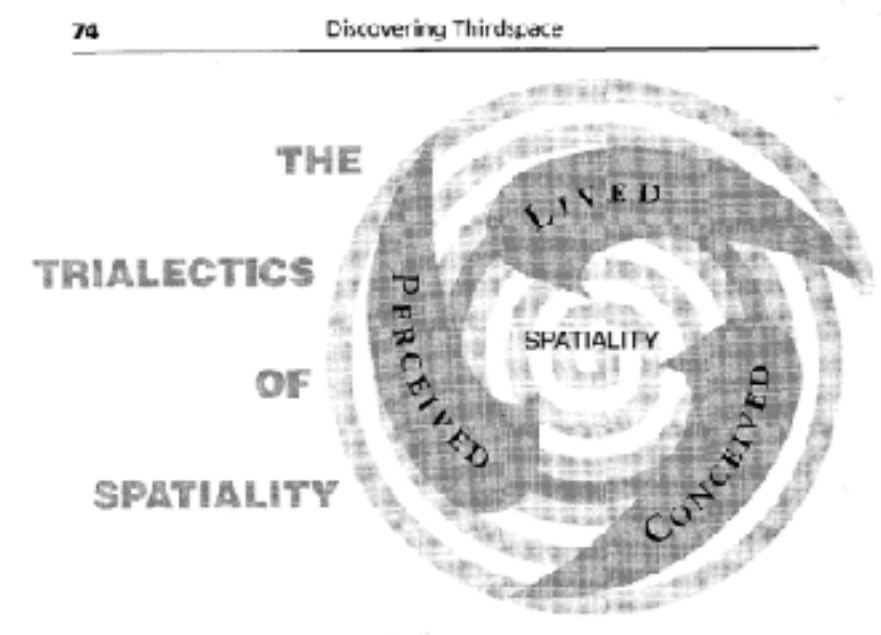
まちの暮らし、らしさ、良いところ、  
悪いところは様々なモノ、コト、場所のハーモニーとして  
'都市のアイデンティティ'となる。

大まかな要素として：

- 人間 - まちに暮らす人々（訪れる人々）
- 人間以外 - 自然、季節、建物やインフラなどの人工物
- 人間以上のもの - 国の方針や資本などの流れ/慣例/文化

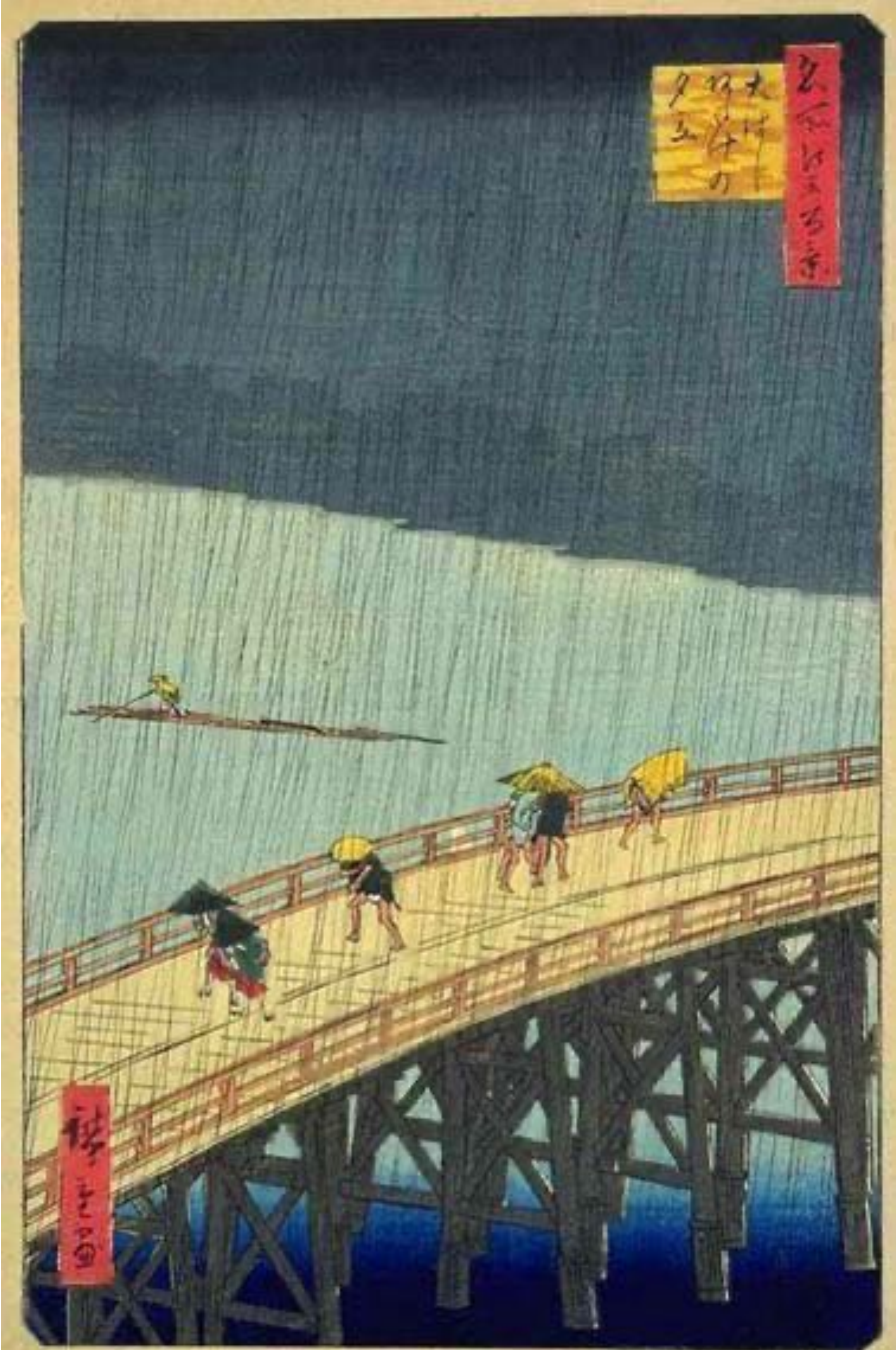
*Our society is comprised through simultaneous narratives.*

*We cannot conceptualise people's daily practices as representative one single story.*



イカサゼ函館  
イカサゼ函館  
函館へイカを食べに来ないか？  
イカ漁師  
ゲンさんの1日  
函館来るならココにだけ！  
ココがイイよね！  
札幌近郊特産  
WEB企画 イカ漁師ゲンさんの1日  
函館のイカ漁師、ゲンさん(16)の1日をご紹介します。

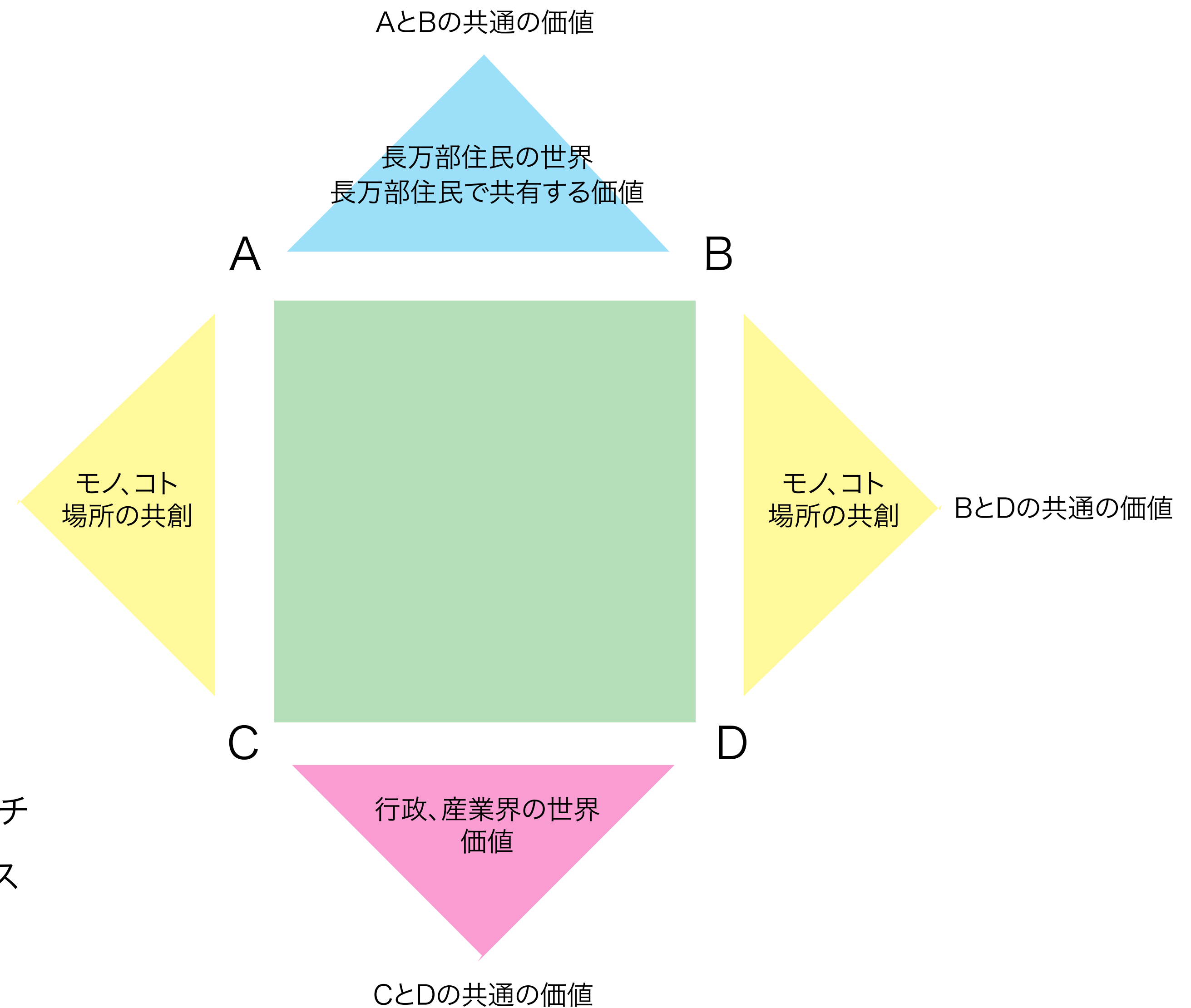
スーパーヒーロー路線



## 2: アクタンスリアル マッピング

### How do I analyse both quantitative and qualitative datas, adopting Latour, Lacan, Graimas, and Parson's theory

自主的/自助的な街づくりの第一歩は「異なる意見を持つ他者を尊重する」ことから始まります。ここではフランス哲学者Latour, Lacan, Graimasの論理をもとに共同研究者であるトリシア・オースチン、アラン・パーソンズと共に設計したactantialityという哲学的システムを用いて情報の共有、分析、議論を住民と共に行います。

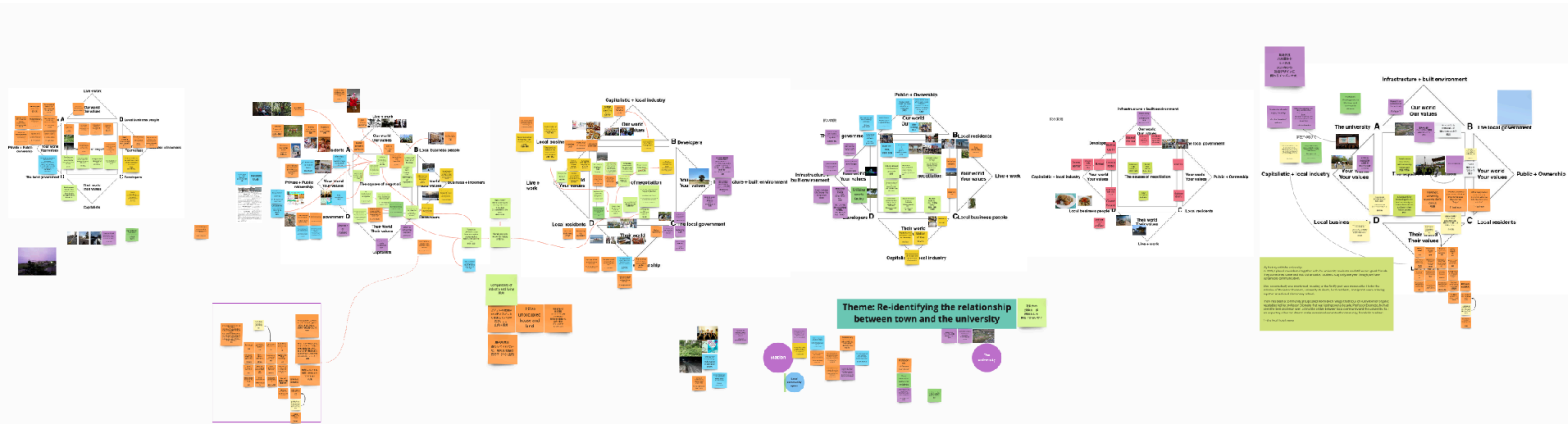


# Actantiality Map to analyse power dynamics



# Actantiality: visualisation of inter-subjectivity

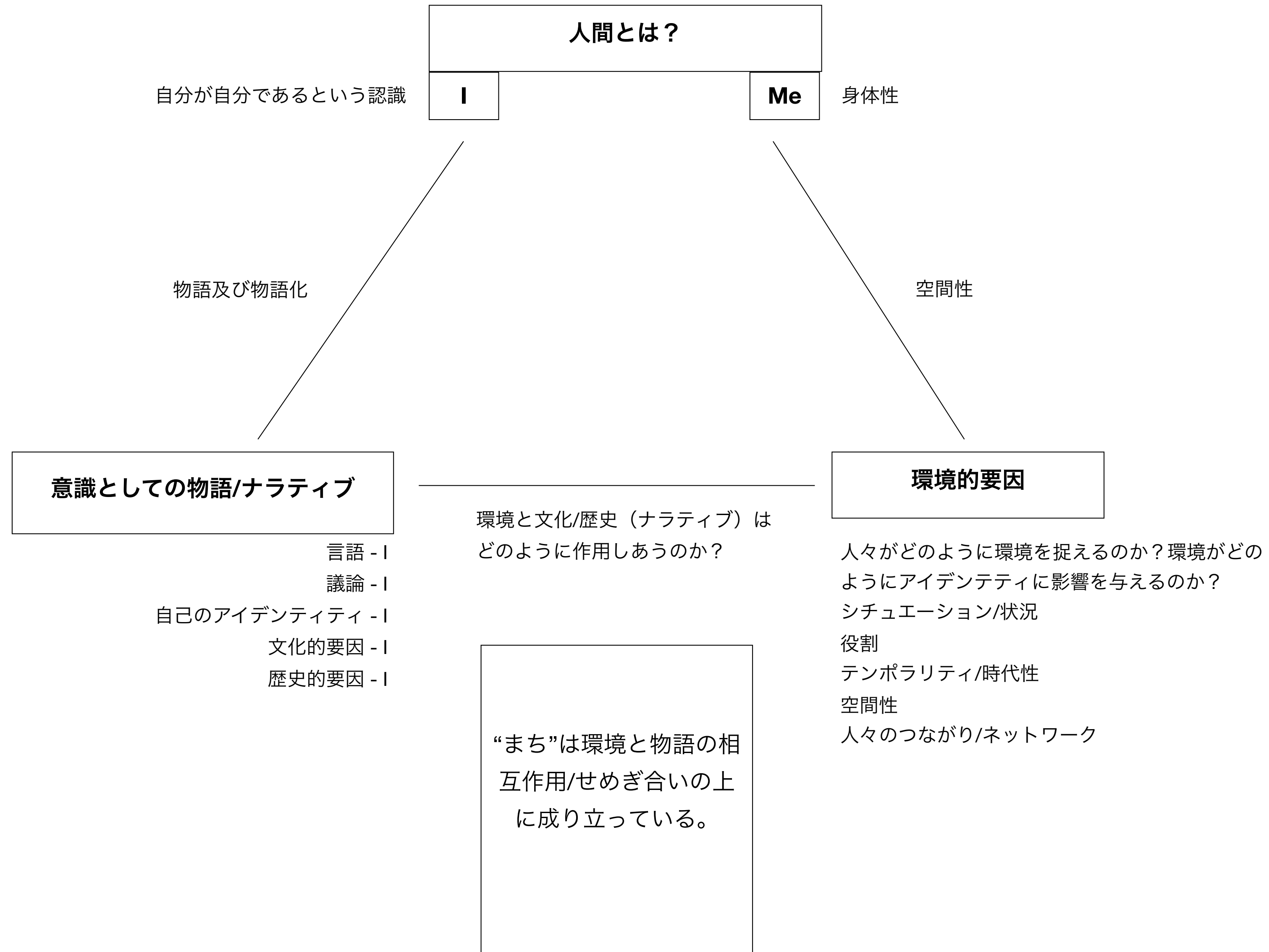
アクタンスリアリティを使用し、それぞれのステークホルダーの視点の違いを視覚化する







# 環境と人間性の相互フィードバック

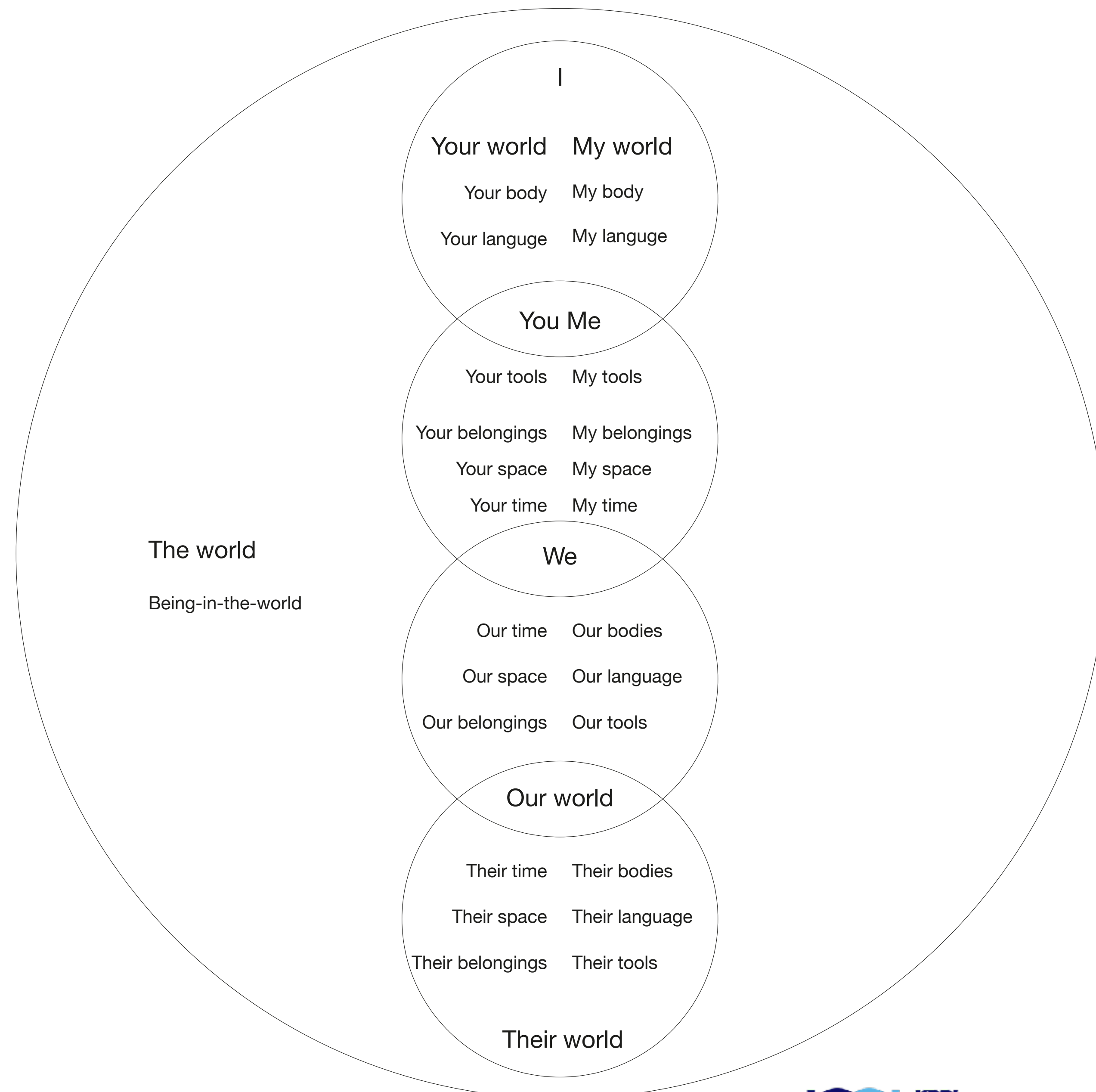


# Facilitation is not being obedient, it should be Constructivism

あなたにはあなたの、私には私の、私たちには私たちの、そして彼らには彼らの、それぞれのツールがある。そして、より良い未来を一緒に再構築するにはどうすればいいのか。

ファシリテーションとは、“従属”ではなく、様々な次元で人々が所有するツールの応用とシェアである。

ツールとは、言語、空間、時間、身体性。そしてその連続性は、個人レベルから世界の仕組みまでつながっている



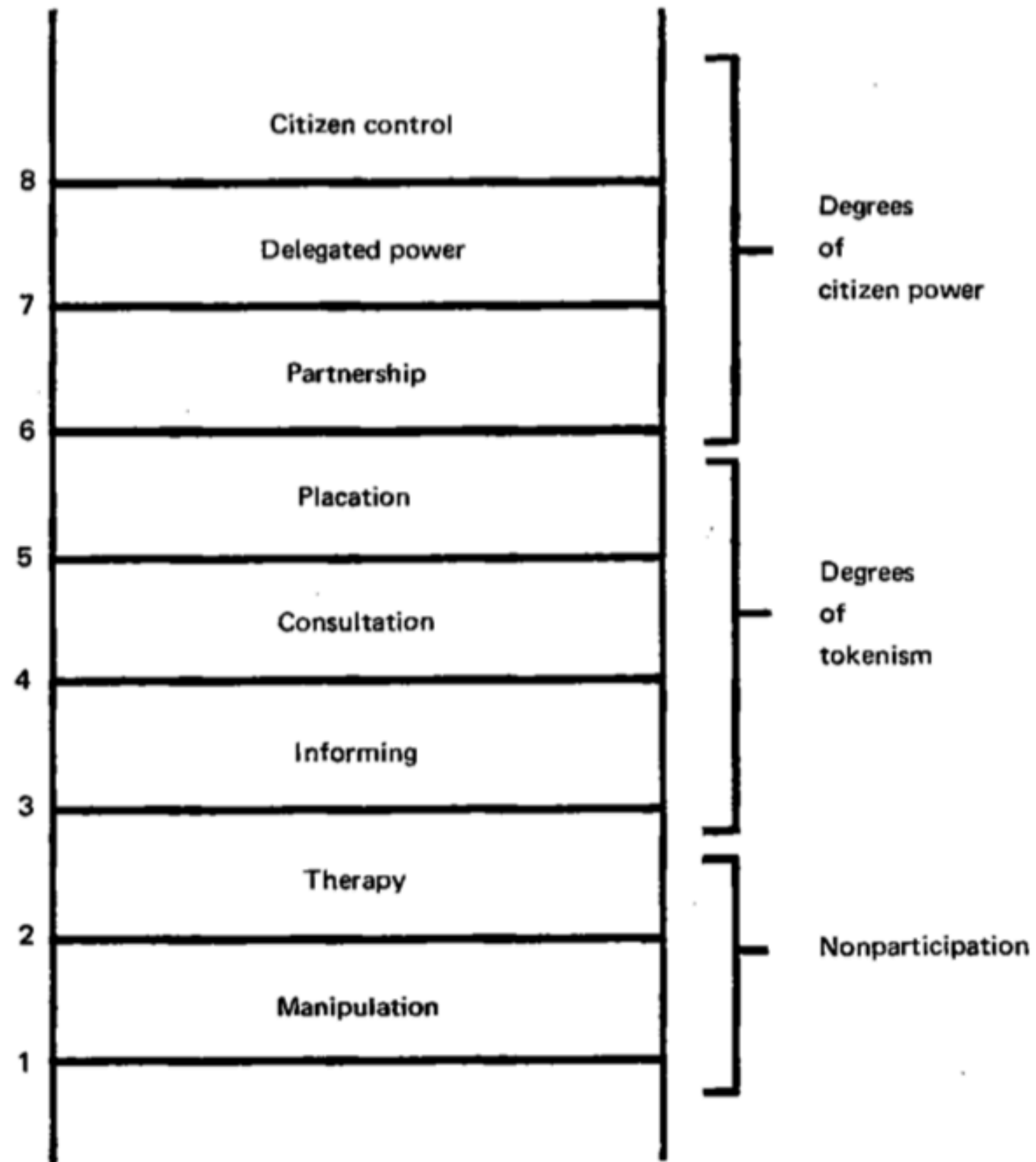


FIGURE 2 *Eight Rungs on a Ladder of Citizen Participation*

Originally published as Arnstein, Sherry R. "A Ladder of Citizen Participation," JAIP, Vol. 35, No. 4, July 1969, pp. 216-224. I do not claim any copyrights.

ありがとうございました。

**Academic language advisors:**

Tom Butler, Belinda Dunstan, James Couling, Emile Denichaud, Ana Ospina, Ricky Hindmarsh

**Daily basis consultations:**

Nobuhisa Ata and Peter Thornton

**And my dear supervision team**

**Tricia Austin** - Central Saint Martins, University of the Arts London

**Allan Parsons** - Central Saint Martins, University of the Arts London

**Andrea Lioy(ex-supervisor)** - Central Saint Martins, University of the Arts London

Just to note: Tokyo University of Science covered transportation fee for three trips, by the token of they use my methodology to develop a new course called “co-design project” from 2021. Thank you.